

2020 令和2年度 新潟大学 附属新潟中学校



正解のない 問いに挑み 世界を変える



校章

1957年(昭和32年)創立10周年に樹立。清浄純白な
越後の雪の結晶、六花の中央に中学校の「中」。

校旗

校章の左上方に、「新潟師範学校」の校旗を受け継ぎ、北国の雄としての
誇りを象徴すべく輝く北極星を配している。この星は、百年以上にわたって
数多の人材が自らの目指すべき方向として誇らしく仰ぎ見た輝く「星」で
ある。栄えある伝統と附属新潟中学校の品格として、不滅の存在を意味する。

沿革

- 1947(昭和22)年4月28日 ● 新潟第一師範学校男子部附属新潟中学校として開校
- 1949(昭和24)年7月1日 ● 新潟第一師範学校附属中学校と校名変更
- 1951(昭和26)年4月1日 ● 新潟大学教育学部附属新潟中学校と校名変更
- 1994(平成6)年3月24日 ● 西大畑校舎に移転
- 1998(平成10)年4月1日 ● 新潟大学教育人間科学部附属新潟中学校と校名変更
- 2008(平成20)年4月1日 ● 新潟大学教育学部附属新潟中学校と校名変更
- 2020(令和2)年4月1日 ● 新潟大学附属新潟中学校と校名変更

校長
メッセージ



校長
皆川 宏志

生徒がよりよく生きるために
～「世界を変える力」を身に付けた人材育成を目指して～

「どうせ僕なんて成績が悪いし・・・」「どうせ、私なんて人気ないし・・・」といった自ら人生
をつまらなくする言葉を口にしがちです。しかしながら、もし「自分は一人しかいない、かけ
がえのない存在なのだ」と自分を誇りに思えるようになれば「どうせ自分なんて」という言
葉は口にしなくなります。そして、自分の存在を認められるようになれば、目の前にいる相
手の「その人らしさ」も認めることができるはずで。自分もたった一人の自分であるように、
誰もが皆たった一人しかいない大切な存在なのだとして尊重できるようになります。

当校では、「生き方を求めて学ぶ生徒」を教育目標に掲げ、世界を変える力を身に付けた人
材育成を目指した教育課程を編成しています。当校の教育環境と授業や様々な活動を通し
て、自分らしい生き方を求めることに価値を見出してほしいのです。

そのためには、多くの人とかかわったり、議論したり、様々な課題を解決したり、最適解を
追求したりする経験が必要です。人とかかわれば意見が食い違うことや対立することもあり
ます。時にはトラブルもありますが、その解決こそが「生きる力」を育む貴重な経験なのです。

今年度より新潟大学附属新潟中学校となり、さらに大学との連携を図ります。当校生徒
をはじめ教員を目指す学生のために、地域の研究推進校としての役割を自覚しながら全力で
邁進してまいります。

教育目標

生き方を求めて学ぶ生徒

重点事項

- 新たな価値を創造する
- 対立やジレンマを克服する
- 責任ある行動をとる

生徒
メッセージ

令和2年度
生徒会委員長
高橋 侑希



予測困難といわれる未来を私たちはどのように生きていくべきでしょうか。附属新潟
中学校では、多くの人との対話や、深い思考を通して、問いに対する自らの解を創り出し
ていきます。私たちは、自ら考え、責任を持って積極的に行動することや、集団の一員と
して仲間を尊重し、切磋琢磨して成長していくことを大切にしています。こうした精神
が、当校ならではの自由な校風に繋がっていきます。当校では、行事など幅広い分野で、
生徒自らが主体となって活動しています。生徒は皆、温かく、個性が豊かです。そして、
様々な活動の中で、深い友情や豊かな人間性が育まれ、集団として成長していきます。
すばらしい環境の中で伸び伸びと学ぶことが出来るのが、この附属新潟中学校です。

令和2年度 第3学年委員長

村尾 泰治

附属新潟中学校のよさ・魅力と言われ
て、私が一番最初に思い浮かべるのは、一
人一人の個性です。例えば話合いの場面
であれば、全員がいろいろな視点から多
様なアイデアを出します。行事では一人
一人が自らの個性を生かせる場で活躍し
、行事を成功に導きます。一人一人の個性
、そしてそれを認め合い、高め合う風土
によって附属新潟中学校の生徒は成長し
続けていきます。



令和2年度 第2学年委員長

後藤 蓮

附属新潟中学校には、たくさんのよさがあります。
生徒自らが考え、自主的に活動に取り組むことです。
生徒一人一人が今何をすべきか、そのために何を
するのかを考え、それを行動に移すことで互いを刺激し
合っている。そして、他学年とのかかわりが深いこと
です。全学年を通して、お互いを尊敬しながらも、仲
間で、よく理解者、協力者です。みんなで一つの輪
であるという実感があります。すばらしい仲間のい
る環境が学校生活を豊かにしてくれます。



令和2年度 入学式・新入生代表挨拶

他田 さくら

附属新潟中学校では、生徒の自主性と協働・協
同の精神が大切にされています。学校行事や専門部
会の活動で皆をまとめるリーダーとそれを支える
フォロワーの姿から、それを感じました。生徒一人
一人の目指す目標は多様ですが、仲間を尊重し助け
合い、自ら考えて行動する力を養うことができる
学びの場、それが附属新潟中学校です。



当校の特色と役割

大学との連携

授業研究、研究発表会で、
全教科が、学部教員を指
導者に迎え、教科教育等
の指導など相互に連携し
ています。



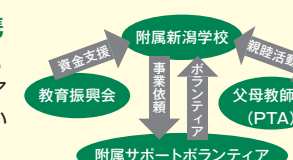
教育研究校としての先進的な取組

OECD日本イノベーション教育ネットワーク(Innovative
Schools Network(ISN) supported by OECD) 地方
創生イノベーションスクール2030第2期(ISN2.0)と、パ
ナソニック教育財団 第46回
実践研究校として、OECD
Learning Framework
2030の理論を取り入れ、
ICTを効果的に活用しなが
ら、これからの教育の在り方
を研究しています。



保護者・地域との連携

教育振興会、父母教師会、
附属サポートボランティア
を中心に、学校を支えてい
ます。



教育実習校としての新たな取組

年間4回の教育実習を実施し、教員養成の基幹校
として展開しています。また、教職大学院の学生を
インターンシップとして受け入れ、学部との連携を
図っています。
○入門教育実習(学部1年生)、観察・参加実習(学
部2年生)、春期教育実習(学部3年生)、秋期教
育実習(学部3年生)、教職大学院実習



“地域のモデル校”としての着実な取組

義務教育校としての着実な取組を行っています。
OMT(モーニングテスト)ー基礎・基本の定着や、家庭学
習の習慣化を図るため、5教科全てで実施しています。
○道徳ー状況を多面的に分析し、より善い言動の在り
方を求めて適切に判断し、実践できる力を育てます。
○特別活動ー問題解決の具体的な方策を仲間と探り、実際に解決していく実践力を
身に付けています。
○総合的な学習の時間ー探究学習を通して、自分の生き方を求めて学ぶ力を育成で
きるようにしています。



附属三校の連携

附属新潟小・中学校、附属特別支援学校では、「知を求
め共生の心をもつ創造性豊かな子どもの育成」を共通の
理念とし、連携して特色ある教育活動を行っています。



パナソニック教育財団 第46回実践研究校
 OECD Learning Framework 2030の理論に基づいた実践を行い、
 ICTを効果的に活用しながら、コンピテンシーを育む研究実践。

OECD日本イノベーション教育ネットワーク
 (Innovative Schools Network (ISN) supported by OECD)
 地方創生イノベーションスクール2030 第2期 (ISN2.0)

What competencies do today's students need to transform society and shape their future? 社会を変革し、未来を創り上げていくために、今の生徒 たちはどんなコンピテンシーを必要とするのでしょうか？

世界を変える生徒へ

附属新潟中学校では、日本イノベーション教育ネットワーク (Innovative Schools Network (ISN) supported by OECD) の実践校、パナソニック教育財団 第46回実践研究校として、「世界を変える力をもった生徒を育成する教育課程の編成」を研究主題に掲げ、研究に取り組んでいます。

生徒は、将来、情報化やグローバル化にともなう社会的変化によって生じる新たな問題を解決していくことが求められます。今までにない想定外の事象・現象について、自分なりに課題を見出し、解を追究する中で新たな価値を創造したり、様々な価値観が交錯する多様性から生じるジレンマと向き合い克服したりしながら自分の考えや行動に責任をもってやり遂げたりする力を身に付けることが必要です。

当校では、教育課程全体を通して協働し、世界を変える力として、コンピテンシー（新たな価値を創造する力、対立やジレンマを克服する力、責任ある行動をとる力）の育成に取り組んでいます。

コンピテンシーの育成には、生徒が対象、他者、自己と対話しながら、授業等で学んだことを、社会で起きている事象・現象等の理由や背景につなげて考える経験が不可欠です。そして、身のまわりの世界の見え方やかわり方が変わり、生徒は、自分がかかわる世界（人、もの、こと）をよりよい方向へ変えることができる実感を持ち、コンピテンシーを表出すると考えます。

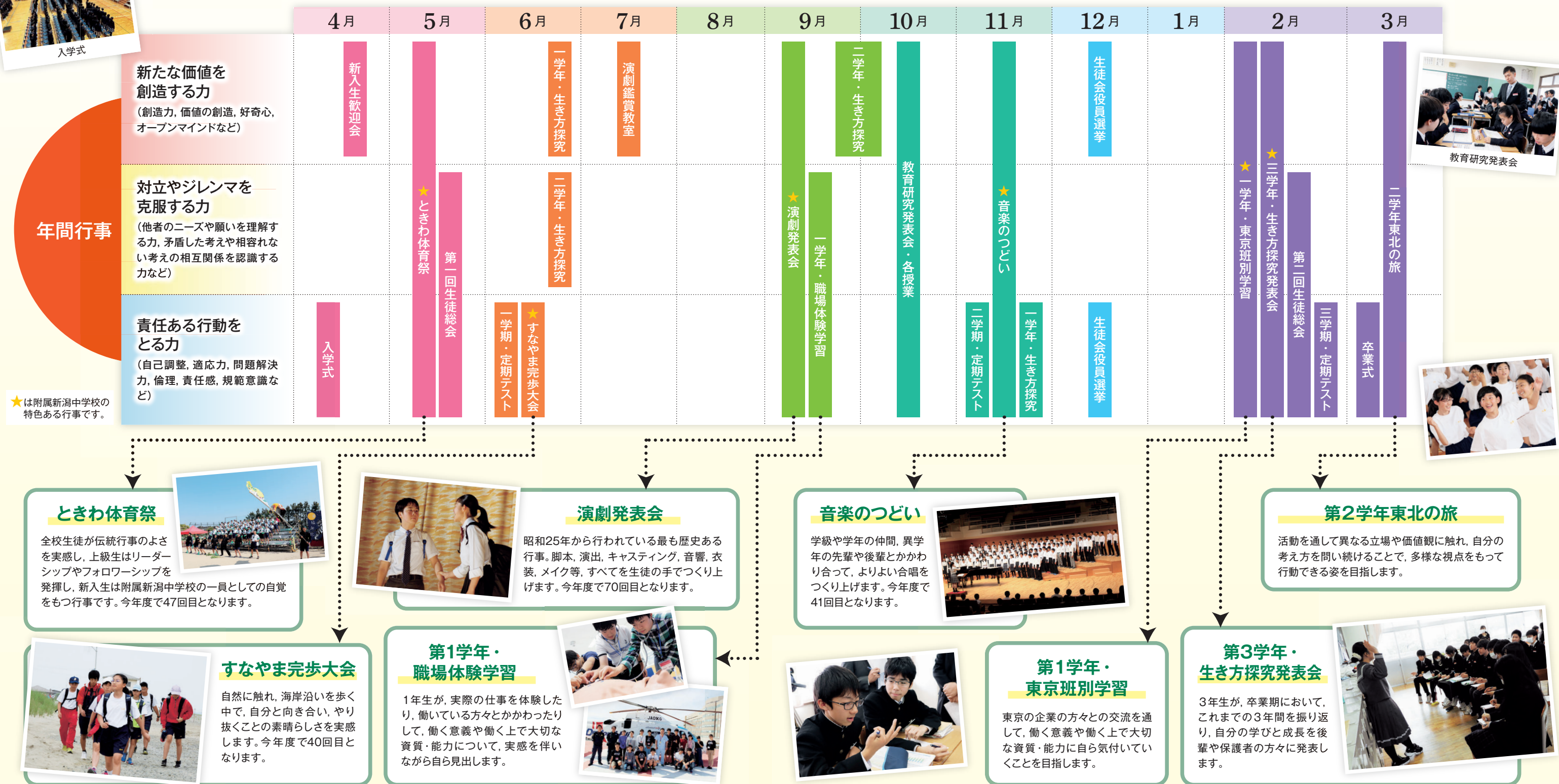
当校では、新しい時代を切り拓いていける人材を育成していきます。



正解のない問いに挑み世界を変える 力を身に付けた生徒を育てたい!!



カリキュラムと「新たな価値を創造する力」、「対立やジレンマを克服する力」、「責任ある行動をとる力」の関係



当校の規模

学級数	生徒数
1 学年 3 学級	
2 学年 3 学級	
3 学年 3 学級	
全 校 9 学級	354 人

教職員数

校長	1
教頭	1
主幹教諭	1
指導教諭	1
教諭	12
養護教諭	1
講師	8
スクールカウンセラー	1
スクールソーシャルワーカー	1

校時表

職員朝会	8:10
登校時間	8:25
モーニングテスト	8:30~ 8:38
朝の会	8:38~ 8:50
第1限	9:00~ 9:50
第2限	10:00~10:50
第3限	11:00~11:50
給食	11:50~12:20
休憩	12:20~12:55
第4限	13:00~13:50
第5限	14:00~14:50
第6限	15:00~15:50
清掃	15:55~16:10
(5限日)	(14:55~15:10)
帰りの会	16:20~16:35
(5限日)	(15:20~15:35)
総下校	18:00
	(10~3月は17:30)

部活動

運動部：陸上競技 サッカー 軟式野球
バレーボール(女) バドミントン(女)
ソフトテニス 卓球
文化部：美術 理科 音楽

生徒会

生徒会シンボルマーク

中央に「くすのき」の芽と平和の象徴である鳩が翼を広げ「翔」を表し、生徒会が大きく成長することを願い創立60周年を記念して策定された。



生徒会スローガン「自主独立・協同」には、自分の行動に責任をもち、集団の一員として仲間と共に高みを目指す、という意味が込められています。



令和元年度を記念して、「知恵」「平和」「勝利」を意味するオリーブの樹をくすのきの隣へ全校生徒で植樹をし、新しいシンボルツリーとした。

生徒会組織

生徒会委員会 新聞部 応援団幹部 生活指導部
図書部 放送部 整美部 保健部 SAS部
奉仕部 学年委員会 生徒会事務局

主な進学先

※令和元年度

学校名	学科	人数
新潟	理数	29
	普通	31
新潟南	普通(理数コース)	1
	普通	6
新潟中央	普通(学究コース)	1
	普通	3
	音楽	1
新潟商業	総合ビジネス	1
	情報処理	1
阿賀黎明	普通	1
国際情報	情報科学	1
巻	普通	1
明鏡	普通	1
新潟明訓	普通	15
新潟第一	普通	12
東京学館新潟	普通(特進)	1
	普通	3
北越	普通(特進)	1
新潟清心	普通	1
開志学園	普通	1
石川県立金沢泉丘	理数	1
筑波大附属	普通	1
慶應義塾志木	普通	1
豊島学院	普通	1
浪速	普通	1
公文スイス校	普通	1
在家	普通	1



附属新潟中学校のホームページ

TEL 025-223-8341
FAX 025-223-8351
〒951-8535 新潟市中央区西大畑町5214番地

新潟大学附属新潟中学校

Top Page

- 教育研究発表会2019 実態報告
- 教育実践2019
- 学校リーフレット2019
- 春の公開授業研究発表会2019
- 教育研究発表会2018
- 研究実践2018
- カリキュラム・マネジメント
- 研究の歩み
- 当校のいじめ防止基本方針

当校の生徒および保護者の方へ (5月22日付)

6月1日からの授業再開について、学級名の通知と授業の計画をアップしました。ご確認ください。

①大学からの通知
②詳細の計画

当校の生徒および保護者の方へ (5月15日付)

5月18日からの通知

当校の生徒および保護者の方へ (5月8日付)

5月11日より29日(金)までの臨時休業継続と分散登校の実

【教育目標】
生き方を求めて学ぶ生徒

【重点目標】

- 新たな価値を創造する
- 対立やジレンマを克服する
- 責任ある行動をとる

研究情報も順次アップ!

- ★日々の教育活動の様子
- ★研究会の案内
- ★各教諭の研究の内容
- ★当校までのアクセス情報 など

<http://jhs.niigata.ed.niigata-u.ac.jp/>



○新潟駅より約3キロ(タクシー料金 約1,300円)
○新潟市内線バス 「浜浦町先回り新潟駅行き」または「浜浦町経由西部営業所行き」または「浜浦町新潟駅行き」乗車。バス停「附属学校入口」で下車。
※料金片道 210円(R2年6月現在)



新潟大学
附属新潟中学校

〒951-8535 新潟市中央区西大畑町5214番地
TEL 025-223-8341 FAX 025-223-8351
e-mail : fucyu@fuchu.ngt.niigata-u.ac.jp